

YELL

vol.10

特集 植物に学ぶリーダーシップ論

厳しい環境の中でそれぞれが生き抜く工夫をしている植物たち。Yellでは、元岩瀬農業高等学校教諭の佐久間辰一先生からお話を伺い、植物が持っている秘密から、リーダーシップ論など志事にも通じるエピソードを紹介します。

■光合成の時期は？

9月中旬、お彼岸の頃になると畦道などに立ち並ぶ真っ赤な花。日本でも馴染み深い花、彼岸花。ヒガンバナ科ヒガンバナ属の多年草の植物です。

この花の持つ秘密を佐久間先生が教えてくださいました。「彼岸花はいつ光合成をしているか分かりますか？」普通に考えると、他の植物と同じように花が咲いている時期が思い浮かびます。

しかし、咲いている彼岸花をよく見てみると、地面から茎が一直線に伸びて花がついているだけ。枝や葉は見つかりません。一般的に植物として必要なエネルギーを作る光合成は、葉にある葉緑体を中心に行なわれます。花の咲く時期に、葉が無い彼岸花。どうやら花の時期とは異なる時期に光合成を行っているようです。

■生き方選び

佐久間先生が驚きの答えを教えてくださいました。その時期は、なんと冬。赤い花もすっかり落ち、周りの植物もすっかり枯れた晩秋。

彼岸花は、株の中心から、線のように細い葉を放射線状に伸ばしていきます。この時、花がつく茎は伸ばさず、地面に這うように葉を広げます。これは、効率よく光合成を行うため、生まれたエネルギーは地中の球根に蓄えられます。他の植物が葉を出す春になるとその葉は枯れてしまい、秋になって、ようやく赤い花が咲き誇ります。

元福島県立岩瀬農業高等学校
教諭

さくま しんいち
佐久間 辰一さん



田村市大越町でひまわりを活用した地域おこしに取り組む「牧野ひまわりの会」会長。毎年8月15日に行なわれる「ひまわりフェスティバル」には、地元のお祭りにも関わらず全国から人びとが集うイベントになっている。

平成26年3月まで福島県立岩瀬農業高等学校で教鞭をとられ、定年退職後は、奥さんと二人三脚で、農業をすすめ、東北の地で南国の果物「パッションフルーツ」の路地栽培に成功。知恵と工夫で様々な野菜、果物の栽培に挑戦し、誰もが憧れる「楽しい農業」を進めている。

さて、なぜ彼岸花はわざわざ寒い冬の時期に光合成を行うのでしょうか？ここに、彼岸花をはじめとする植物の生き残るための秘密が隠されていました。

夏。植物たちは、背丈を大きく伸ばそうとします。他の植物よりも背を大きくすることで、多くの太陽の光を得ようとするのです。しかし、彼岸花は元々背の低い植物で、夏に茎や葉を伸ばしても、他の背の高い植物の影となってしまいます。これでは、光合成をすることができず、花を咲かせるエネルギーもなくなってしまうのです。そこで彼岸花は、あえて他の植物が選ばない時期に光合成をするを選択しました。

■彼岸花に学ぶ企業経営

「もちろん他の植物がない冬で生き抜くための工夫を彼岸花はしているんです。」佐久間先生が教えてくださったのは、葉の生え方。地面近くに這わせるようにつけることで、寒さから身を守

ることができるそうです。

「植物は争わない生き方をしている。会社や人もそうできれば良い。」と佐久間先生。

同じ場所で、同じことをするのではなく、人びとのお役立ちを考えて「志事」をしていくこと。そして、違うことを行ったときに生まれる壁を乗り越える工夫を考えること。会社の経営にも通じる道を植物から教えて頂いています。



インターンの学生さんが 学びに来てくれました！

9月、地元の短期大学の学生さんが、採用と教育研究所に職業体験にいらっしやいました。短い時間でしたが、お志事を通してたくさんのことを学んでくださいました。学生さんの感想をご覧ください。

私はこの5日間で自分の固定観念が変わりました。

「働く」ということは、繰り返し同じ作業をし、生きるためにお金を頂くだけのイメージでした。それまでの私は、将来この停滞している自分を想像するのが苦痛でした。

しかし違いました。5日間を通じて、モノの見方を実践しながら学び、考え方を変えただけで自然と笑顔も出るようになりました。考え方を変えることで、自己成長ができる。そして、自ら行動することで人が笑顔になってくれることってなんて素敵なことだろう。大切なことを学ばせていただき感謝しています。



桜の聖母短期大学 宗像成美さん

事務所を 移転しました！

創業から5年間お世話になったコラッセふくしまを卒業させて頂き、事務所の引越しをいたしました。新事務所での四季を感じるほっこりシーンをご紹介させて頂きます。



自然な香り溢れるお庭

お庭から入ることができるアットホームな入口のドアは、スタッフ皆で、柿墨で塗装させて頂き、自然の香りがいっぱいです。そこに毎朝小さな赤い花を見せてくれるアサガオと、ぷっくりとした実をつけている風船かずら。名前のとおり風船のようにぷくっとしていて種には、なんとハートの模様が入っているのを発見です。風船かずらには幸せがつまっていました。

ひまわり

春にはCSR部門活動（福島ひまわり里親プロジェクト）での全国の里親さんに贈って頂いた種の種を、スタッフみんなで植えさせて頂き、夏にはかわいらしい花をつけてくれました。

毎日の水やりで成長する様子に、里親さんの想いのひまわりが咲き誇る日を楽しみにスタッフ一同毎日元気を頂きました^^



こけだま

「ぼんさいやあべ」さんで作らせて頂いた弊社のこけだま。四季折々の顔を見せてくれます。こけだまも、可愛い花を開き、紅く色づく葉が秋を彩ってくれていました。

日々植物や自然の神秘に触れ、気づかせて頂いています。



ほっとコラム



我が家の庭先や採用と教育事務所では今年、ひまわりを育させて頂きました。全国の皆さんが育てて下さった日本と福島を種の御縁で紡がれた“思いやり”のひまわりです。花を育てるのは小学校の授業ぶり懐かしい気持ちになりました。見るのと育てるのでは全く異なり、同じひまわりでもとても可愛らしく、愛おしいというか我が子のようにと言いますかとても幸せな気持ちにさせて頂きました。

さて、ひまわりの花が満開になろうという日のことです。早朝、花が開き始めていたので、夜には満開になっているだろうとわくわくしながら帰宅しました。すると、そこにあったはずの満開のひまわりがない…。次の日も満開の花がきましたが、また消えてしまっている。次の日も次の日も… 花が咲くと、必ずそのひまわりが消えてしまうのです。

この不思議な出来事の答えを、ある朝、お隣に住んでいらっしゃるご婦人に教えて頂きました。実は、そのご婦人がひまわりの花を大切に摘んでいかれていたとの事。

お話をお伺いすると、ご婦人は、「飯舘村」の方。3・11をきっかけに、福島市に避難。刈り取った全国の皆さんのひまわりはというと、旦那さんのご仏前に備えてくださったそうです。旦那さんが大好きだった花。福島市の街中ではなかなか飯舘村のような大自然をとはいきませんが、せめてもとひまわりを旦那さんにお供えをされていました。息子さんは、故郷を毎晩パトロールされているそうで、あと一年半後の帰郷を願われていました。

その日も、朝満開だったひまわりがまた一つ無くなっていました。今頃は、ご仏前に大切に備えられているのだろう、お二人と一緒にひまわりのお花見をされているのだろうと思うと、なんだか心が温かくなりました。

花を通して心のつながりが生まれゆく「花笑み」。今号で取り上げさせて頂きました、自然や花の魅力は「学び」だけではなくわれわれの心に力をくれる大切な地球のお友達ですね。よかったら職場でもちょっとした花を育ててみませんか？花笑み満開になるかも。（半田 真仁）



半田 真仁 (はんだ しんじ)

「採用と教育研究所」所長

企業、自治体等の採用と教育を手がける。福島の企業を中心に、いい会社を目的に「仁財育成」のサポーターとして定評がある。

笑いが溢れ楽しく役立つ講演は経営者から学生まで幅広く人気で全国を駆け回る。

発行 / 採用と教育研究所

TEL 024-529-5153

FAX 024-529-5794

E-Mail : info@saiyoutokyouiku.com

HP : <http://www.saiyoutokyouiku.com>

[Special Thanks] Hiroko Aihara

Photo: Takao Horiuchi